

## はじめに

第3回亜熱帯森林・林業研究会の定期総会・研究発表会が開催されるにあたり、ごあいさつ申し上げます。

本研究会も回を重ねるごとに、会員数も増加し、このように盛大に大会が開催されますことは意義深いことであるとともに、事務局の方々及び関係各位に心から感謝申し上げます。

さて、森林は、地球温暖化の防止や国土の保全、水源のかん養、生物多様性の保全など多様な機能を有し、「緑の社会資本」として広く国民に恩恵をもたらしております。また、我が国では、京都議定書の第1約束期間が迫る中、森林整備による二酸化炭素吸収量の確保への期待が高まってきております。

特に、沖縄の位置する亜熱帯地域は、熱帯・亜熱帯性の樹種が混在する豊かな森林と、世界的に希少な種を含む多くの野生動物が生息しておりますが、世界的には、植生の乏しい砂漠地域が広がっており、ここで行う森林・林業研究は、学術的にも貴重となっております。

このため、当研究会は、大学、行政、民間等の亜熱帯森林・林業に関わる会員が、これまで、大学などの試験研究機関や産業分野等において研鑽されてきた、様々な技術研究及び行政で実施する施策等について、広く意見交換や情報交換を行う場を提供するとともに、さらなる研究の振興と地域及び国際貢献のできる人材の育成を推進するため重要なものとなりつつあります。

昨年の発表会では、遠路は熊本県、鹿児島県や沖縄県の西表島等の離島などからの参加を得、西表国有林の自然体験型ツアーの実態調査や熱帯樹種の育種の課題、ソテツ切り葉やシイタケ栽培等林産物の生産、沖縄県内の県産材の普及活動、オヒルギの樹勢回復、メヒルギ林の健全度の研究等の熱帯・亜熱帯樹種にかかる12課題の報告が発表され、熱心な討議が行われました。

本年も、林野庁西表森林環境保全ふれあいセンター、鹿児島県林業試験場龍郷駐在、沖縄県の職員、森林総合研究所、琉球大学等から11の研究発表があり、大変嬉しく思っております。

本日の大会が、契機となり会員数の増大とともに、さらなる研究の振興に貢献するとともに、我が国の亜熱帯地域における森林の多様な機能の高度発揮と林業の一層の発展、そして、国際森林・林業協力にも大きく貢献できますように祈念しあいさついたします。

平成19年9月7日

亜熱帯森林・林業研究会長 篠原武夫